

2023年度 文学部聴講生

講義要項

(フランス語文学文化専攻抜粋)

中央大学 文学部

2023.4 - 2024.3

目 次

科目No	専攻	漢字科目名	教員氏名	学期名称	曜日名称	時限名称	ページ番号
E1401	フランス語文学文化	フランス文化史 A	小嶋 洋介	前期	木	3時限	3
E1402	フランス語文学文化	フランス文化史 B	小嶋 洋介	後期	木	3時限	6
E1403	フランス語文学文化	フランス言語思想 A / フランス言語思想 (1) A (2) A	金澤 忠信	前期	水	4時限	9
E1404	フランス語文学文化	フランス言語思想 B / フランス言語思想 (1) B (2) B	金澤 忠信	後期	水	4時限	12
E1405	フランス語文学文化	フランス小説 A / フランス小説 (1) A (2) A	小野 潮	前期	火	1時限	15
E1406	フランス語文学文化	フランス小説 B / フランス小説 (1) B (2) B	小野 潮	後期	火	1時限	18
E1407	フランス語文学文化	フランス詩 A / フランス詩 (1) A (2) A	前之園 望	前期	木	1時限	21
E1408	フランス語文学文化	フランス詩 B / フランス詩 (1) B (2) B	前之園 望	後期	木	1時限	24
E1409	フランス語文学文化	フランス文学研究 A / フランス文学研究 (1) A (2) A	小嶋 洋介	前期	木	2時限	27
E1410	フランス語文学文化	フランス文学研究 B / フランス文学研究 (1) B (2) B	小嶋 洋介	後期	木	2時限	30
E1411	フランス語文学文化	フランス映画 A / フランス映画 (1) A (2) A	伊藤 洋司	前期	月	2時限	33
E1412	フランス語文学文化	フランス映画 B / フランス映画 (1) B (2) B	伊藤 洋司	後期	月	2時限	36
E1413	フランス語文学文化	フランス文化研究 A / フランス文化研究 (1) A (2) A	杉村 裕史	前期	木	3時限	39
E1414	フランス語文学文化	フランス文化研究 B / フランス文化研究 (1) B (2) B	杉村 裕史	後期	木	3時限	41
E1415	フランス語文学文化	美術史各論 (3) A	和田 菜穂子	前期	木	5時限	44
E1416	フランス語文学文化	美術史各論 (3) B	岸 佑	後期	木	5時限	47
E1417	フランス語文学文化	美術史各論 (4)	永井 裕子	後期	月	4時限	50

科目名: フランス文化史A

担当教員: 小嶋 洋介

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 木3

配当年次: 1~4年次配当

科目ナンバー: LE-FS1-D203

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:55 更新者: AB2707

更新日時: 2022-12-22 18:53:33

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

フランス文化の基層を探究することを目的として、古代からルネサンスに至る歴史を辿りつつ、横断的に関連する文化事項を織り込み解説する。特に、「神」、もしくは「神々」に関して、人々はどのような思索を展開していたのか、「神話的思考」に依拠しつつ考察する。未だ「西洋」も「フランス」も、明瞭な姿を現してはいない時代から生き続ける古代の森に潜む「精霊」への思慕と、それを制圧するかのように立ち現れる「一神」への信仰の間で揺れ動く「魂」の履歴を明るみに出すを試みる。

科目目的

フランス文化について研究や思索を深めていくための、一つの「手がかり」を提供することを目的とする。同時に、その文化が、「フランス」という、ある特殊な地域・分野に集約されるものと言うより、複数文化との関係の網目からなる「複合・相対的」な地場から形成されていることを明らかにするものでもある。

到達目標

フランスならびに西洋文化に関する認識を深めることを目指す。しかしながら、講義で論じられる多種・多様な問題を、単なる知識として受容するのではなく、独自に論究し「思索」することに向けての「導き」とすることが、より大きな目標である。

授業計画と内容

- 第1回 神話的思考について
- 第2回 「魂のよりどころ」という問題提起
- 第3回 ヨーロッパの基層文化としてのケルト
- 第4回 ケルトとディズニー
- 第5回 神話論理の実例
- 第6回 ハロウィンの深層
- 第7回 宗教と「自然」
- 第8回 巨石文化と洞窟壁画
- 第9回 ゲルマン民族の大移動をめぐって
- 第10回 「精霊」について
- 第11回 フランク王国とキリスト教
- 第12回 騎士と聖性
- 第13回 ジャンヌ・ダルクの謎
- 第14回 象徴として「古の王」

*以上のプログラムは仮のものであり、予定どおり進行しないこともある旨、ご了承ください。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

配信する授業原稿とそこに掲示する参考文献などを読み、興味のある内容があれば、それについて調べ考えること。他人の意見を鵜呑みにするのではなく、自分なりに論究することが大切です。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	90%	期末レポートを提出してもらいます。単位を取得するうえで、提出が必須事項となります。自分なりの考えを提示しようとする意思があり、同時に自分の考えを他者に明確に伝える文章に優れていると判断できるレポートを、高く評価します。
平常点	0%	
その他	10%	適当な時期に、「小レポート」を課題として出します。「期末レポート」執筆・提出の練習や準備となるものです。この小レポートだけで、単位を取得することはできません。

成績評価の方法・基準(備考)

レポートに関する詳細は、適切な時期をみて、manabaに配信します。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

各講義ごとに課題を出したり、試験を行うことはありません。質問に関しては、manabaの個人授業コレクション、あるいは掲示板を通じて、随時、受け付けます。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)
 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

✓ はい
 いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>講義原稿をmanabaに掲載します。
 <参考文献>講義原稿中に随時紹介していきます。

オフィスアワー

その他特記事項

基本的には、原稿をmanabaに配信します。質問、疑問、異論、大歓迎です。Manabaの個人指導コレクション、もしくは掲示板を利用してください。

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

科目名： フランス文化史B**担当教員： 小嶋 洋介**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：木3

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-FS1-D204

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:40:55 更新者：AB2707

更新日時：2022-12-22 18:54:31

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「フランス文化史A」では、古代から中世に至る時代を扱ったが、この「B講義」では、それに続く大きな時代の変革期、すなわち歴史上ルネサンスと呼ばれる時代の文化の特質を論じ、それ以降、「近世」「近代」と呼ばれる時代の文化を展望する。それは「フランス」文化の特質が、より明瞭に姿を現すに至る過程でもある。特に「神」の問題が「理性」と「自然」をめぐる問題へと移行していく点に焦点を当てる。そのために、何人かの思想家や芸術家を選別して、彼らのテキストや作品を具体的に分析しつつ、横断的に関連事項を織り込みながら討究する。なかでも「光」のように、自然物でありながら文化的要素としても働く「あいだ」の存在に着目する。最終的に、それが人間の「文化」の深層に働く「自然」の存在論的問題であることについて論究する。

科目目的

フランス文化について研究や思索を深めていくための、一つの「手がかり」を提供することを目的とする。同時に、その文化が、「フランス」という、ある特殊な地域・分野に集約されるものと言うより、複数文化との関係の網目からなる「複合・相対的」な地場から形成されていることを明らかにするものでもある。

到達目標

フランスならびに西洋文化に関する認識を深めることを目指す。しかしながら、講義で論じられる多種・多様な問題を、単なる知識として受容するのではなく、独自に論究し「思索」することに向けての「導き」とすることが、より大きな目標である。

授業計画と内容

- 第1回 文化における「野生」
- 第2回 ルネサンスとユマニスム
- 第3回 エラスムスとモンテーニュ
- 第4回 新大陸という「問題」
- 第5回 ルネサンス解釈の諸相
- 第6回 イスラーム文化の恩恵
- 第7回 ルネサンスにおける「魔術思想」
- 第8回 ダ・ヴィンチと「自然」
- 第9回 ダ・ヴィンチの絵画
- 第10回 デカルトにおける「理性」
- 第11回 デカルトの存在論
- 第12回 ルソーの自然思想
- 第13回 フランス革命とミシュレ
- 第14回 ロマン派と近代

*以上のプログラムは仮のものであり、予定どおり進行しないこともある旨、ご了承ください。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

配信する授業原稿とそこに掲示する参考文献などを読み、興味のある内容があれば、それについて調べ考えること。他人の意見を鵜呑みにするのではなく、自分なりに論究することが大切です。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	90%	期末レポートを提出してもらいます。単位を取得するうえで、提出が必須事項となります。自分なりの考えを提示しようとする意思があり、同時に自分の考えを他者に明確に伝える文章に優れていると判断できるレポートを、高く評価します。
平常点	0%	
その他	10%	適当な時期に、「小レポート」を課題として出します。「期末レポート」執筆・提出の練習や準備となるものです。この小レポートだけで、単位を取得することはできません。

成績評価の方法・基準(備考)

レポートに関する詳細は、適切な時期をみて、manabaに配信します。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

各講義ごとに課題を出したり、試験を行うことはありません。質問に関しては、manabaの個人授業コレクション、あるいは掲示板を通じて、随時、受け付けます。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)
 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

✓ はい
 いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>講義原稿をmanabaに掲載します。
 <参考文献>講義原稿中に随時紹介していきます。

オフィスアワー

その他特記事項

原稿をmanabaに配信します。質問、疑問、異論、大歓迎です。Manabaの個人指導コレクション、もしくは掲示板を利用してください。

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

備考

科目名: フランス言語思想A/フランス言語思想(1)A(2)A

担当教員: 金澤 忠信

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 水4

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-FS2-D301

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:56 更新者: AA1931

更新日時: 2023-01-21 15:11:37

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「フランス言語思想」は、「フランス」という固有名詞と、「言語」「思想」という2つの普通名詞から成り立っています。これは、「フランスにおける、言語にもとづいた思想」と解することができます。第二次世界大戦後、フランスでは、言語学をパイロット・サイエンスとして、人文・社会諸科学に一大変革をもたらす思想的潮流が現れました。この思想は「構造主義」と呼ばれ、20世紀後半の約半世紀の間、フランスのみならず、日本を含め世界の知的状況に大きな影響を与えました。この授業では、構造主義興隆の歴史的背景に目配せしつつ、その理論・方法論について、具体的にいくつかのテキストを読みながら学んでいきます。また、構造主義の今日的意義についても考察します。

科目目的

この科目は、フランス発の構造主義が、哲学、言語学、社会学、歴史学、人類学、精神分析、経済学などの人文・社会諸科学を、どのような歴史的文脈のなかで、どのように変革し、領域横断的な現在の知のあり方の礎となったかを知ることを目的とします。

到達目標

まず、構造主義の理論モデルとなった言語学あるいは記号学を理解する。そのうえで、構造主義に関連する哲学、人類学、精神分析、社会学などの研究書を読み、その方法論を身につけて、自分の専門分野の研究に活かすことができるようになる。

授業計画と内容

- 授業計画と内容□
- 第1回 言語・思想・歴史
 - 第2回 一般言語学 (1)
 - 第3回 一般言語学 (2)
 - 第4回 一般言語学 (3)
 - 第5回 一般言語学 (4)
 - 第6回 記号学 (1)
 - 第7回 記号学 (2)
 - 第8回 記号学 (3)
 - 第9回 記号学 (4)
 - 第10回 構造主義 (1)
 - 第11回 構造主義 (2)
 - 第12回 構造主義 (3)
 - 第13回 構造主義 (4)
 - 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

シラバスや授業で紹介された参考文献を読んで、予習復習すること。授業で配布された資料を復習し、さらにその出典や関連文献にあたって理解を発展させること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	60%	100点満点で、60点以上が合格の目安。
レポート	0%	
平常点	40%	毎回授業時に出される課題にそってミニレポートを執筆しmanabaに提出。授業についての感想や質問を書いてもよい。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

- ①期末試験 [問1] 穴埋め問題 (40点)、[問2] 語句・用語の説明 (30点) では、用語・概念がしっかり身についているかどうか、[問3] 論述問題 (30点) では、理論・方法論を理解し、自分であげた例に適用しながら説明することができるかどうか問われます。
- ②原則的に、授業数の3分の2以上の出席 (コメントの提出) が必要です。ミニレポートの提出をもって「出席」とします。ミニレポートは、その質・量の評価の対象とします。授業の内容を踏まえたうえで、指定された課題にきちんと答えているかどうか、論理的で分かりやすい文章であるかどうか問われます。次の授業で、意見・感想の紹介、質問への回答をします。試験が苦手な人あるいは上位の成績を目指す人は、毎回のミニレポートをしっかりと書くようにしてください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- ✓ 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaの活用

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

■テキストは毎回配布する。

■参考文献：

- ★フェルディナン・ド・ソシュール、『新訳ソシュール一般言語学講義』、町田健訳、研究社、2016年。
 - ★ロマン・ヤコブソン、『一般言語学』、川本茂雄監修、みすず書房、1973年。
 - ★クロード・レヴィ=ストロース、『構造人類学』、荒川幾男他訳、みすず書房、1972年。
 - ★クロード・レヴィ=ストロース、『親族の基本構造』、福井和美訳、青弓社、2000年。
 - ★J. =M. ドムナック編、『構造主義とは何か』、伊藤守男・谷亀利一訳、平凡社、2004年。
 - ★フランソワ・ドゥス、『構造主義の歴史 [上巻] ——記号の沃野 1945～1966』、清水正・佐山一訳、国文社、1999年。
 - ★フランソワ・ドゥス、『構造主義の歴史 [下巻] ——白鳥の歌 1967～1992』、中澤紀雄訳、国文社、1999年。
 - ★内田樹、『寝ながら学べる構造主義』、文春新書、2002年。
- ※その他の参考文献については授業で適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

メールアドレス : tkanazawa116@g.chuo-u.ac.jp

参考URL

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>
語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名: フランス言語思想B/フランス言語思想(1)B(2)B

担当教員: 金澤 忠信

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 水4

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-FS2-D302

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:56 更新者: AA1931

更新日時: 2023-01-21 15:12:02

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「フランス言語思想A」（前期）の続きですが、Aを履修していなくてもBを履修することは可能です。

「フランス言語思想」は、「フランス」という固有名詞と、「言語」「思想」という2つの普通名詞から成り立っています。これは、「フランスにおける、言語にもとづいた思想」と解することができます。第二次世界大戦後、フランスでは、言語学をパイロット・サイエンスとして、人文・社会諸科学に一大変革をもたらす思想的潮流が現れました。この思想は「構造主義」と呼ばれ、20世紀後半の約半世紀の間、フランスのみならず、日本を含め世界の知的状況に大きな影響を与えました。この授業では、構造主義興隆の歴史的背景に目配せしつつ、その理論・方法論について、具体的にいくつかのテキストを読みながら学んでいきます。また、構造主義の今日的意義についても考察します。

科目目的

この科目は、フランス発の構造主義が、哲学、言語学、社会学、歴史学、人類学、精神分析、経済学などの人文・社会諸科学を、どのような歴史的文脈のなかで、どのように変革し、領域横断的な現在の知のあり方の礎となったかを知ることを目的とします。

到達目標

まず、構造主義の理論モデルとなった言語学あるいは記号学を理解する。そのうえで、構造主義に関連する哲学、人類学、精神分析、社会学などの研究書を読み、その方法論を身につけて、自分の専門分野の研究に活かすことができるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 言語と構造 (1)
- 第3回 言語と構造 (2)
- 第4回 言語と構造 (3)
- 第5回 言語と構造 (4)
- 第6回 テキスト・エクリチュール・言説 (1)
- 第7回 テキスト・エクリチュール・言説 (2)
- 第8回 テキスト・エクリチュール・言説 (3)
- 第9回 テキスト・エクリチュール・言説 (4)
- 第10回 脱構築 (1)
- 第11回 脱構築 (2)
- 第12回 脱構築 (3)
- 第13回 脱構築 (4)
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

シラバスや授業で紹介された参考文献を読んで、予習復習すること。授業で配布された資料を復習し、さらにその出典や関連文献にあたって理解を発展させること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	60% 100点満点で、60点以上が合格の目安。
レポート	0%
平常点	40% 毎回授業時に出される課題にそってミニレポートを執筆しmanabaに提出。授業についての感想や質問を書いてもよい。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

- ①期末試験 [問1] 穴埋め問題 (40点)、[問2] 語句・用語の説明 (30点) では、用語・概念がしっかり身についているかどうか、[問3] 論述問題 (30点) では、理論・方法論を理解し、自分であげた例に適用しながら説明することができるかどうか問われます。
- ②原則的に、授業数の3分の2以上の出席 (コメントの提出) が必要です。ミニレポートの提出をもって「出席」とします。ミニレポートは、その質・量を評価の対象とします。授業の内容を踏まえたうえで、指定された課題にきちんと答えているかどうか、論理的で分かりやすい文章であるかどうか問われます。次の授業で、意見・感想の紹介、質問への回答をします。試験が苦手な人あるいは上位の成績を目指す人は、毎回のミニレポートをしっかりと書くようにしてください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- ✓ 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaの活用

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

■テキストは毎回配布する。

■参考文献：

- ★フェルディナン・ド・ソシュール、『新訳ソシュール一般言語学講義』、町田健訳、研究社、2016年。
- ★クロード・レヴィ=ストロース、『悲しき熱帯I・II』、川田順造訳、中央公論新社、2001年。
- ★ロラン・バルト、『物語の構造分析』、花輪光訳、みすず書房、1979年。
- ★ロラン・バルト、『S/Z』、沢崎浩平訳、みすず書房、1973年。
- ★ロラン・バルト、『テキストの快楽』、沢崎浩平訳、みすず書房、1977年。
- ★ミシェル・フーコー、『作者とは何か?』、清水徹・豊崎光一訳、哲学書房、1990年。
-
- ★ジャック・デリダ、『グラマトロジーについて(上・下)』、足立和浩訳、現代思潮社、1972年。
- ★ジャック・デリダ、『散種』、藤本一勇・立花史・郷原佳以訳、法政大学出版局、2013年。
- ★高橋哲哉、『デリダ——脱構築と正義』、講談社学術文庫、2015年。
- ★J. =M. ドムナック編、『構造主義とは何か』、伊藤守男・谷亀利一訳、平凡社、2004年。

★内田樹、『寝ながら学べる構造主義』、文春新書、2002年。
※その他の参考文献については授業で適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

メールアドレス： tkanazawa116@g.chuo-u.ac.jp

参考URL

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>
語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名: フランス小説A/フランス小説(1)A(2)A

担当教員: 小野 潮

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 火1

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LT2-D303

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:56 更新者: AA9440

更新日時: 2023-01-08 16:48:24

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

前期フランス小説A、後期フランス小説Bでそれぞれ2つの作品を取り上げ、それぞれの作品について、梗概を紹介したうえで、登場人物、その構造、特徴、また文学史上の位置づけについて解説していきます。前期のフランス小説Aではバンジャマン・コンスタンの『アドルフ』、ラクロの『危険な関係』を取り上げます。どちらもフランスの心理小説の傑作として高い評価を受けている作品です。

科目目的

仏文専攻学生の必読書の中から、著名な小説作品を選び、解説する講義を聴くだけでなく、実際に読むことでフランス小説全体に対する知見を広め、体得することを目的とします。世界にとって文学とは何か、という大きな問題と共に、自分にとっての「文学」の意味を確かめる機会としてください。

到達目標

- 1) 卒業論文や次年度の個別研究、ゼミの選択などの際に、参考となる知見を持つこと。フランス小説を軸として、思想、詩、映画、演劇その他の文化現象を読み解く技術を会得し、自身の意見を的確に表現できるようになること。
- 2) 小説を分析的に読むとはどのようなことかを体得すること。
- 3) フランス人がフランス人のために書いた文章を読解できるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 フランス小説史概観
- 第2回 バンジャマン・コンスタンの紹介 『アドルフ』の梗概
- 第3回 登場人物 アドルフ
- 第4回 登場人物 エレノール
- 第5回 『アドルフ』という作品の特徴
- 第6回 コンスタン作品中における『アドルフ』
- 第7回 書簡体小説について ショデルロ・ラクロの紹介
- 第8回 『危険な関係』の梗概
- 第9回 登場人物ヴァルモン
- 第10回 登場人物メルトゥイユ
- 第11回 登場人物 トルヴェル法院長夫人
- 第12回 もうひとつの筋
- 第13回 『危険な関係』という作品の特徴
- 第14回 前期の振り返り

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

なるべく早く、指定されたテキストを一度だけでなく、数度にわたって読み込んでください。また配布した原文抜粋もできるだけ自分で辞書を引きながら読み込んでください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	80% 学期中に『アドルフ』学期末に『危険な関係』についてのレポートを提出していただきます。
平常点	20% 授業中の発言、授業への主体的参加
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

取り上げる二作品についてレポートを提出していただきます。
ただし、その作品ではなくて、他のフランス小説を取り上げていただいても構いません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

グループを作ってください、それぞれの作品の登場人物の特徴、物語の作り方の特徴、物語の構造などについて議論し、それについてプレゼンしていただきます。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

コンスタン『アドルフ』中村佳子訳、光文社古典新訳文庫
ラクロ『危険な関係』竹村猛訳 角川文庫
他に原文の抜粋をコピーで配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>
語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名: フランス小説B/フランス小説(1)B(2)B

担当教員: 小野 潮

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 火1

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LT2-D304

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:56 更新者: AA9440

更新日時: 2023-01-08 16:48:39

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

前期フランス小説A、後期フランス小説Bでそれぞれ2つの作品を取り上げ、それぞれの作品について、梗概を紹介したうえで、登場人物、その構造、特徴、また文学史上の位置づけについて解説していきます。
前期のフランス小説Bでは第二次大戦後の二作品を取り上げます。全体が二人称で書かれた特異な小説であるミシェル・ビュートルの『心変わり』と、最近ようやく日本でも広く知られ始めたロマン・ガリの小説『夜明けの約束』です。どちらの作品にも多少面食らうことがあるかと思いますが、じっくり読むとなかなかに興味尽きない作品です。

科目目的

現代小説に親しむことを目的とします。解説する講義を聴くだけでなく、実際に読むことでフランス小説全体に対する知見を広め、体得することを目的とします。世界にとって文学とは何か、という大きな問題と共に、自分にとっての「文学」の意味を確かめる機会としてください。

到達目標

- 1) 卒業論文や次年度の個別研究、ゼミの選択などの際に、参考となる知見を持つこと。フランス小説を軸として、思想、詩、映画、演劇その他の文化現象を読み解く技術を会得し、自身の意見を的確に表現できるようになること。
- 2) 小説を分析的に読むとはどのようなことかを体得すること。
- 3) フランス人がフランス人のために書いた文章を読解できるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 20世紀フランス小説史概観
- 第2回 ミシェル・ビュートルの紹介 『心変わり』の梗概
- 第3回 『心変わり』の時間構成
- 第4回 登場人物デルモン
- 第5回 登場人物 アンリエットとセシル
- 第6回 三つの空間 パリ、ローマ、列車
- 第7回 『心変わり』という作品の特徴
- 第8回 ロマン・ギャリの紹介 『夜明けの約束』の梗概
- 第9回 『夜明けの約束』の空間・時間構成
- 第10回 登場人物 主人公
- 第11回 登場人物 母親
- 第12回 『夜明けの約束』の世界観
- 第13回 小説としての『夜明けの約束』の特徴
- 第14回 学年全体の振り返り

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

指定された二作品の翻訳はなるべく早く、一度ではなく数度読むようにしてください。
また配布された原文についても、自分で辞書をひいて読解を試みてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	80% 学期中に『心変わり』学期末に『夜明けの約束』についてのレポートを提出していただきます。
平常点	20% 授業中の発言、授業への主体的参加。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

取り上げる二作品についてレポートを提出していただきます。
ただし、その作品ではなくて、他のフランス小説を取り上げていただいても構いません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

グループを作ってください、それぞれの作品の登場人物の特徴、物語の作り方の特徴、物語の構造などについて議論し、それについてプレゼンしていただきます。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

ミシェル・ビュトール『心変わり』岩波文庫 清水徹訳
ロマン・ガリ 「世上げの約束」若津航訳 共和国
他に原文抜粋をコピーで配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

■語文コースブログ 毎週、更新中!
<https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

■中央大学 仏文専攻 語文コース :

備考

科目名： フランス詩A／フランス詩(1)A(2)A

担当教員： 前之園 望

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 木1

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-D305

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:40:57 更新者： AA2035

更新日時： 2023-01-07 00:44:42

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
 - 英語
 - ドイツ語
- ✓ フランス語
 - 中国語
 - その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では20世紀に活躍した詩人の作品を中心に、フランスの近現代詩作品を鑑賞します。フランス語で書かれた詩を原文のまま味わい、音読、訳読を通してフランス詩独自の作品空間を自分の身体で体感できるようになりましょう。また、フランス詩の理解の助けとなる資料のコピーを配布し、チームに分かれてその内容のレジュメ発表を行っていただきます。

授業はグループワークを中心に進めます。以下の要領で一つの詩作品に2週間かける予定です。

■1週目

分析対象の詩作品の音読を行い、詩句の文法構造を丁寧に確認します。指名して内容の確認を行うことがありますので、最低でも作品中に使用されている単語の意味は調べておきましょう。授業後半ではチームに分かれて、以下のグループワークを行います。①分析対象の詩作品について自由にディスカッションを行い、その内容をチーム代表者が発表する。②分析対象の詩作品に関する文法問題を各チーム3問作成し、正解と共に全体で共有する。③次週行うヴァリエントゲーム（本シラバス「参考URL」および「コメント1」参照）の準備を行う。

■2週目

授業開始時に小テストを行います。試験範囲は前回の授業内容。グループワークで作成してもらった問題の一部が使用される可能性があります。試験結果は平常点に加算されます。次に、各チームが担当箇所のレジュメ発表を行います（毎回1～2チームずつ、パワーポイント使用）。それから、チーム対抗でヴァリエントゲームを行います。

授業後には毎回授業に関するミニコメントをmanabaの掲示板に書き込んでいただきます。他の履修生に読まれることを前提に、作品の解釈、感想、疑問点などを書き込んでください。書き込みの頻度は平常点に反映されます。

学期末に授業内容に関するレポートを提出していただき、平常点と合わせて成績を評価します。

科目目的

1年生で学んだフランス語の基礎文法を文学作品読解に実際に適用する能力を身に付ける。小ぶりの詩の分析作業を通して文学作品の構造分析の基礎的技術を身に付け、ボリュームのある詩篇、小説などの作品分析にもその技術をいかせるようになる。

到達目標

1. 授業で扱った詩作品の音声上の特徴を理解する。
2. 授業で扱った詩作品の文法構造を理解する。
3. 授業で扱った詩作品で使用されている修辭法を理解する。
4. 上記の観点を踏まえて自分で詩作品の解釈を行う。

授業計画と内容

今学期は20世紀に活躍したアンドレ・ブルトン（1896-1966）の作品を扱います。

第1回：授業概要説明。アンドレ・ブルトンの紹介。

第2回：「壊れないハイタカ」文法解説。

第3回：「壊れないハイタカ」小テスト。ヴァリエントゲーム。「『溶ける魚』の亡霊」発表①

第4回：『溶ける魚』第4番、文法解説。

第5回：『溶ける魚』第4番、小テスト。ヴァリエントゲーム。「『溶ける魚』の亡霊」発表②

第6回：「塩の仙女」文法解説。

第7回：「塩の仙女」小テスト。ヴァリエントゲーム。「『溶ける魚』の亡霊」発表③

第8回：「私は見る、私は想像する」文法解説。

第9回：「私は見る、私は想像する」小テスト。ヴァリエントゲーム。「『溶ける魚』の亡霊」発表④

第10回：「せめてもの身代金」文法解説。

第11回：「せめてもの身代金」小テスト。ヴァリエントゲーム。「『溶ける魚』の亡霊」発表⑤

第12回：「ウリ」文法解説。

第13回：「ウリ」小テスト。ヴァリエントゲーム。「『溶ける魚』の亡霊」発表⑥

第14回：まとめ

（授業回は大体の目安であり、履修者の人数や理解度によって内容を追加・変更することがあります。）

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	以下の5項目を採点基準とし評価する。 ①提出期間を含め課題の規定に従っている。 ②構成(問題設定・本論・結論)が適切である。 ③主題(論旨)が明確かつ説得的である。 ④執筆者にしか書けない独創性がある。 ⑤誤字脱字などのない明晰な文章である。
平常点	50%	50%の内訳は、30%が毎回の小テスト・掲示板の書き込み、20%がディスカッション・グループ発表などへの参加態度。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

毎回の授業へのコメントを共有するためにmanabaの掲示板機能を利用します。また、チーム発表やヴァリアントゲームを行う際に、タブレット、パソコンなどが必要になります。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業で扱う作品はmanabaを通して配布します。
参考文献は授業中に指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・この授業は、初回は「フランス詩（1）A」として、2回目は「フランス詩（2）A」として、合計2回単位を取得することができます。
- ・5回以上欠席された方は、原則として成績評価の対象となりません。やむを得ない個別の事情がある場合は、必ず事前にご相談ください。
- ・事前に教員に相談があり、教員がやむを得ないと判断した場合に限り、欠席された方が自宅からオンライン受講することを認めます。なお、オンライン受講をされても出欠記録は「欠席」となります。
- ・グループワークでは、無断欠席等でチームメンバーに迷惑をかけないよう気を付けて下さい。
- ・個別の連絡には「個別指導（コレクション）」を使用し、要件ごとにスレッドを立ててください。クラス全体の「掲示板」に個人情報を書き込まないようにご注意ください。
- ・毎回の授業は、webexで授業画面のみ録画をし（教室の様子は撮影しません）可能な範囲でアーカイブ公開を行う予定です。授業内容の復習に役立ててください。
- ・聴講生の方のグループワークへの参加は任意とします。希望される場合はmanaba「個別指導（コレクション）」よりご相談ください。
- ・聴講生の方でオンライン受講を希望される方はmanaba「個別指導（コレクション）」よりご相談ください。ただし、必要な機材の貸し出し等はいたしません。

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。
語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>
語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

ヴァリエントゲームの解説動画もご覧ください。
https://youtu.be/5vk-yp_X6Ls

備考

科目名： フランス詩B／フランス詩(1)B(2)B

担当教員： 前之園 望

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 木1

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-D306

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:40:57 更新者： AA2035

更新日時： 2023-01-07 00:46:24

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- ✓ フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では20世紀に活躍した詩人の作品を中心に、フランスの近現代詩作品を鑑賞します。フランス語で書かれた詩を原文のまま味わい、音読、訳読を通してフランス詩独自の作品空間を自分の身体で体感できるようになりましょう。また、フランス詩の理解の助けとなる資料のコピーを配布し、チームに分かれてその内容のレジュメ発表を行ってまいります。

授業はグループワークを中心に進めます。以下の要領で一つの詩作品に2週間かける予定です。

■1週目

分析対象の詩作品の音読を行い、詩句の文法構造を丁寧に確認します。指名して内容の確認を行うことがありますので、最低でも作品中に使用されている単語の意味は調べておきましょう。授業後半ではチームに分かれて、以下のグループワークを行います。①分析対象の詩作品について自由にディスカッションを行い、その内容をチーム代表者が発表する。②分析対象の詩作品に関する文法問題を各チーム3問作成し、正解と共に全体で共有する。③次週行うヴァリエントゲーム（本シラバス「参考URL」および「コメント1」参照）の準備を行う。

■2週目

授業開始時に小テストを行います。試験範囲は前回の授業内容。グループワークで作成してもらった問題の一部が使用される可能性があります。試験結果は平常点に加算されます。次に、各チームが担当箇所のレジュメ発表を行います（毎回1～2チームずつ、パワーポイント使用）。それから、チーム対抗でヴァリエントゲームを行います。

授業後には毎回授業に関するミニコメントをmanabaの掲示板に書き込んでいただきます。他の履修生に読まれることを前提に、作品の解釈、感想、疑問点などを書き込んでください。書き込みの頻度は平常点に反映されます。

学期末に授業内容に関するレポートを提出していただき、平常点と合わせて成績を評価します。

科目目的

1年生で学んだフランス語の基礎文法を文学作品読解に実際に適用する能力を身に付ける。小ぶりの詩の分析作業を通して文学作品の構造分析の基礎的技術を身に付け、ボリュームのある詩篇、小説などの作品分析にもその技術をいかせるようになる。

到達目標

1. 授業で扱った詩作品の音声上の特徴を理解する。
2. 授業で扱った詩作品の文法構造を理解する。
3. 授業で扱った詩作品で使用されている修辭法を理解する。
4. 上記の観点を踏まえて自分で詩作品の解釈を行う。

授業計画と内容

今学期は20世紀に活躍したギヨーム・アポリネール（1880-1918）の作品を扱います。

- 第1回：授業概要説明。ギヨーム・アポリネールの紹介。
- 第2回：「ブランシュ・ネージュ」文法解説。
- 第3回：「ブランシュ・ネージュ」小テスト。ヴァリエントゲーム。「新精神と詩人たち」発表①
- 第4回：「ロズモンド」文法解説。
- 第5回：「ロズモンド」小テスト。ヴァリエントゲーム。「新精神と詩人たち」発表②
- 第6回：「クロチルド」文法解説。
- 第7回：「クロチルド」小テスト。ヴァリエントゲーム。「新精神と詩人たち」発表③
- 第8回：「イヌサフラン」文法解説。
- 第9回：「イヌサフラン」小テスト。ヴァリエントゲーム。「新精神と詩人たち」発表④
- 第10回：「黄昏」文法解説。
- 第11回：「黄昏」小テスト。ヴァリエントゲーム。「新精神と詩人たち」発表⑤
- 第12回：「ミラボー橋」文法解説。
- 第13回：「ミラボー橋」小テスト。ヴァリエントゲーム。「新精神と詩人たち」発表⑥
- 第14回：まとめ

（授業回は大体の目安であり、履修者の人数や理解度によって内容を追加・変更することがあります。）

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	以下の5項目を採点基準とし評価する。 ①提出期間を含め課題の規定に従っている。 ②構成(問題設定・本論・結論)が適切である。 ③主題(論旨)が明確かつ説得的である。 ④執筆者にしか書けない独創性がある。 ⑤誤字脱字などのない明晰な文章である。
平常点	50%	50%の内訳は、30%が毎回の小テスト・掲示板の書き込み、20%がディスカッション・グループ発表などへの参加態度。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

毎回の授業へのコメントを共有するためにmanabaの掲示板機能を利用します。また、チーム発表やヴァリエントゲームを行う際に、タブレット、パソコンなどが必要になります。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業で扱う作品はmanabaを通して配布します。
参考文献は授業中に指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・この授業は、初回は「フランス詩（1）B」として、2回目は「フランス詩（2）B」として、合計2回単位を取得することができます。
- ・5回以上欠席された方は、原則として成績評価の対象となりません。やむを得ない個別の事情がある場合は、必ず事前にご相談ください。
- ・事前に教員に相談があり、教員がやむを得ないと判断した場合に限り、欠席された方が自宅からオンライン受講することを認めます。なお、オンライン受講をされても出欠記録は「欠席」となります。
- ・グループワークでは、無断欠席等でチームメンバーに迷惑をかけないよう気を付けて下さい。
- ・個別の連絡には「個別指導（コレクション）」を使用し、要件ごとにスレッドを立ててください。クラス全体の「掲示板」に個人情報を書き込まないようにご注意ください。
- ・毎回の授業は、webexで授業画面のみ録画をし（教室の様子は撮影しません）可能な範囲でアーカイブ公開を行う予定です。授業内容の復習に役立ててください。
- ・聴講生の方のグループワークへの参加は任意とします。希望される場合はmanaba「個別指導（コレクション）」よりご相談ください。
- ・聴講生の方でオンライン受講を希望される方はmanaba「個別指導（コレクション）」よりご相談ください。ただし、必要な機材の貸し出し等はいたしません。

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。
語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>
語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

ヴァリエントゲームの解説動画もご覧ください。
https://youtu.be/5vk-yp_X6Ls

備考

科目名： フランス文学研究A/フランス文学研究(1)A(2)A

担当教員： 小嶋 洋介

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 木2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-D307

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:40:57 更新者： AA1931

更新日時： 2023-01-24 09:03:34

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- ✓ フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

文学作品を読むとは、魂のコトバを読み取り、対話を交わすことです。対話相手のほとんどは、亡くなった人の魂です。何十年、何百年、時には何千年も以前に亡くなった人々と会話をするのです。そのような体験を通じて、人の形は無くなっても魂は滅びない、今も生きているという思いをするのではないのでしょうか。もちろん、どのような作品が私達の「こころ」を魂の対話へと誘うのか、人によって様々でしょう。またこの時、文学作品は、小説や詩といったジャンルに限ったことではありません。神話、哲学、あるいは科学的テキストにおいても、そのような誘いの力を持つものは少なくありません。授業では、もっぱら「私」の「こころ」に触れてきた作品を紹介し、

講義は、歴史的な流れを辿りながら、「魂」の問題の西洋的な展開を把握した上で、フランス文学に読み得るその「コトバ」に対し、私なりに答えてみたいと思います。「フランス」文学以外のテキストにも言及する故、比較文学・文化の要素も併せ持つ授業である点、ご了承ください。とにかく様々なテキストを一緒に読んでみましょう。そして、皆さんも自分なりに、過去から届く魂の声との応答を試みてみてください。

前期A講義では、古代からルネサンスにかけての作品を取り上げます。特に前半は、オリエント神話、ギリシア神話、悲劇、哲学というフランス以外の作品を扱います。それらが、いかなる意味で「フランス文学」と関わってくるかは、徐々に明らかとなります。

科目目的

- ・この科目は、カリキュラム上の講義科目として位置づけられていることから、この科目での学習を通じて、学生がフランス文学に対する基礎知識を修得するとともに、言語・文化・社会についての素養と複眼的思考の重要性を理解できるようになります。
- ・この科目は、文学部のディプロマポリシーである「幅広い教養」「複眼的思考」「専門的学識」を修得することを目的としています。

到達目標

フランス文学、ならびにより広い意味での「文学」に関する認識を深めることを目指します。しかしながら、講義で論じる多種・多様な問題を、単なる知識として受容するのではなく、独自に論究し「思索」することに向けての「導き」とすることが、より大きな目標です。

授業計画と内容

- 第1回 始まりの文学＝「神話」（ミュトス）について
- 第2回 『ギルガメッシュ叙事詩』
- 第3回 ギリシア神話：特にプロメテウスとディオニュソスについて
- 第4回 ソポクレス『オイディプス王』
- 第5回 ソポクレス『クロノスのオイディプス』
- 第6回 井筒俊彦による「神秘哲学」とディオニュソス
- 第7回 プラトン『ソクラテスの弁明』『パイドン』
- 第8回 プラトン『饗宴』
- 第9回 聖者伝と『ロランの詩』
- 第10回 『トリスタン・イゾー物語』とケルト
- 第11回 トーマス・マロリー『アーサー王の死』
- 第12回 クレティアン・ド・トロワ『ペルスヴァル』と聖杯伝説
- 第13回 ラブレール『ガルガンチュアとパンタグリユエル』
- 第14回 モンテーニュ『エッセー』

以上に掲げた事項はあくまで予定にすぎず、実際の授業の進展に応じ、様々な修正のあり得る旨ご承知ください。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	実施せず
期末試験	0%	実施せず
レポート	80%	期末レポートを提出してもらいます。単位を取得するうえで、提出が必須事項となります。自分なりの考えを提示しようとする意思があり、同時に自分の考えを他者に明確に伝える文章に優れていると判断できるレポートを、高く評価します。
平常点	20%	適当な時期に、「小レポート」を課題として出します。「期末レポート」執筆・提出の練習や準備となるものです。この小レポートだけで、単位を取得することはできません。また、授業への参加度、受講態度の状況なども、平常点に含めます。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaのアンケートや掲示板などの機能を用いて、適宜、学生の反応を把握しながら授業を進めていく。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：
講義原稿をmanabaに掲載します。

参考文献：
レヴィ=ストロース『構造・神話・労働—クロード・レヴィ=ストロース日本講演集』みすず書房
『ギルガメッシュ叙事詩』ちくま学芸文庫
ソポクレス『オイディップス王』『コロノスのオイディップス』ちくま文庫、岩波文庫
井筒俊彦『神秘哲学』岩波文庫他
プラトン『ソクラテスの弁明』『パイドン』『饗宴』岩波文庫他

『ロランの詩』 岩波文庫他
『トリスタン・イゾー物語』 岩波文庫他
マロリー『アーサー王の死』 ちくま文庫
クレティアン・ド・トロワ『ペルスヴァルまたは聖杯の物語』（『フランス中世文学集2』白水社）
ラブレー『ガルガンチュアとパンタグリュエル』 岩波文庫、ちくま文庫
モンテーニュ『エッセー』 白水社、岩波文庫他

その他、授業中に適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名： フランス文学研究B／フランス文学研究(1)B(2)B

担当教員： 小嶋 洋介

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 木2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-D308

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:40:57 更新者： AB2707

更新日時： 2022-12-22 18:52:36

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
 - ドイツ語
- ✓ フランス語
 - 中国語
 - その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

文学作品を読むとは、魂のコトバを読み取り、対話を交わすことです。対話相手のほとんどは、亡くなった人の魂です。何十年、何百年、時には何千年も以前に亡くなった人々と会話をします。そのような体験を通じて、人の形は無くなっても魂は滅びない、今も生きているという思いをするのではないのでしょうか。もちろん、どのような作品が私達の「こころ」を魂の対話へと誘うのか、人によって様々でしょう。またこの時、文学作品は、小説や詩といったジャンルに限ったことではありません。神話、哲学、あるいは科学的テキストにおいても、そのような誘いの力を持つものは少なくありません。授業では、もっぱら「私」の「こころ」に触れてきた作品を紹介します。

講義は、歴史的な流れを辿りながら、「魂」の問題の西洋的な展開を把握した上で、フランス文学に読み得るその「コトバ」に対し、私なりに答えてみたいと思います。「フランス」文学以外のテキストにも言及する故、比較文学・文化の要素も併せ持つ授業である点、ご了承ください。とにかく様々なテキストを一緒に読んでみましょう。そして、皆さんも自分なりに、過去から届く魂の声との応答を試みてみてください。

後期B講義では、近世～近代にいたる「フランス文学」のテキストを、より具体的・多角的に取り上げ論究します。

科目目的

- ・この科目は、カリキュラム上の講義科目として位置づけられていることから、この科目での学習を通じて、学生がフランス文学に対する基礎知識を修得するとともに、言語・文化・社会についての素養と複眼的思考の重要性を理解できるようになります。
- ・この科目は、文学部のディプロマポリシーである「幅広い教養」「複眼的思考」「専門的学識」を修得することを目的としています。

到達目標

フランス文学、ならびにより広い意味での「文学」に関する認識を深めることを目指します。しかしながら、講義で論じる多種・多様な問題を、単なる知識として受容するのではなく、独自に論究し「思索」することに向けての「導き」とすることが、より大きな目標です。

授業計画と内容

- 第1回 デカルト『方法序説』
- 第2回 ルソー『孤独な散歩者の夢想』
- 第3回 ミシュレ：ルネサンスとフランス革命
- 第4回 ミシュレ『魔女』と自然
- 第5回 メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』 光文社古典新訳文庫他
- 第6回 ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』
- 第7回 ヴィリエ・ド・リラダン『ヴェラ』
- 第8回 ゴーレムと生命の神秘主義
- 第9回 ボードレール：「万物照応」の詩想
- 第10回 ランボー：言葉の錬金術
- 第11回 バルザック『ゴリオ爺さん』
- 第12回 バルザック『ルイ・ランベール』
- 第13回 スタンダール『赤と黒』
- 第14回 フローベール『ボヴァリー夫人』

以上に掲げた事項はあくまで予定にすぎず、実際の授業の進展に応じ、様々な修正のあり得る旨ご承知ください。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	実施せず
期末試験	0%	実施せず
レポート	80%	期末レポートを提出してもらいます。単位を取得するうえで、提出が必須事項となります。自分なりの考えを提示しようとする意思があり、同時に自分の考えを他者に明確に伝える文章に優れていると判断できるレポートを、高く評価します。
平常点	20%	適当な時期に、「小レポート」を課題として出します。「期末レポート」執筆・提出の練習や準備となるものです。この小レポートだけで、単位を取得することはできません。また、授業への参加度、受講態度の状況なども、平常点に含めます。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaのアンケートや掲示板などの機能を用いて、適宜、学生の反応を把握しながら授業を進めていく。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：
講義原稿をmanabaに掲載します。

参考文献：
デカルト『方法序説』ちくま学芸文庫他
ルソー『孤独な散歩者の夢想』光文社新古典翻訳文庫他
ミシュレ『ジャンヌ・ダルク』中公文庫、『魔女』岩波文庫
メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』光文社古典新訳文庫他
ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』岩波文庫他
ボードレール『ボードレール全詩集』ちくま文庫他
ランボー『対訳 ランボー詩集』岩波文庫他

バルザック『ゴリオ爺さん』光文社古典新訳文庫他、『神秘の書』水声社
スタンダール『赤と黒』光文社古典新訳文庫他
フローベール『ボヴァリー夫人』新潮文庫他、『感情教育』光文社古典新訳文庫他

その他、授業中に適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名: フランス映画A/フランス映画(1)A(2)A

担当教員: 伊藤 洋司

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-FS2-D309

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:57 更新者: AA0416

更新日時: 2022-12-28 16:25:12

履修条件・関連科目等

特になし。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

フランス映画論

フランス映画の歴史と美学とを学ぶ。時代、ジャンルを問わずあらゆる映画が研究対象となる。フランス映画の特質を理解するために、他の国の映画を取り上げて比較することも多い。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「専門的学識及び幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- (1) 映画論、特にフランス映画論の基本的知識と専門的教養を身につける。
- (2) 映画全般、特にフランス映画について自分自身の頭で本格的に思考できるような能力を身につける。

授業計画と内容

- 第1回「歴史学と美学」
 - 第2回「映画史を語るひとつの方法」
 - 第3回「先生、映画文法って何ですか」
 - 第4回「映画美学1：映像」
 - 第5回「映画美学2：物語」
 - 第6回「何故、僕らはフランス映画論の講義で黄金期ハリウッドを学ばなければならないのか」
 - 第7回「ルイ・フィヤード論、あるいは活劇の起源」
 - 第8回「初期ジャン・ルノワール論、あるいは1920年代アヴェンギャルド」
 - 第9回「ジャン・ヴィゴ論、あるいはアヴェンギャルドの死」
 - 第10回「ドイツ人のハリウッド、ロシア人のフランス映画」
 - 第11回「繰り返しという最もスリリングな虚構について」
 - 第12回「雨に濡れ風に吹かれ、そして男と女は変わっていく」
 - 第13回「長澤まさみと新垣結衣はどちらが映画的か、あるいは純愛を信じていたのは遠い昔」
 - 第14回「小津安二郎の墓、あるいは映像には肯定表現しか存在しない」
- *映画の劇場公開やDVD発売、さらには学生の反応に応じて、実際の講義内容は変化する。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

講義で一部分のみを取り上げた映画や、推薦もしくは言及した映画をできるだけ実際に観るようにする。あるいは、講義内容に関係する参考文献を読んで理解を深める。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 0%

レポート 90% 映画についての基礎知識を理解した上で、映画の根本に関わる問題を学生独自の観点から説明できるかどうかを評価します。

平常点 10% 講義に勤勉な態度で望んでいるかどうかを基準とします。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

講義内容に関する学生の質問を、manabaの個別指導 (コレクション) でいつでも受けつけ、それに回答します。講義に余裕があれば、学生全体に問いを投げかけ、回答してもらいながら、一緒に考えるという時間を設けたいと考えています。

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

長年に渡って、雑誌にて国内外の様々な映画監督へのインタビューを行っており、また時には、映画製作において、脚本やカット割りに関して具体的な助言を行なうこともあります。

実務経験に関連する授業内容

講義で行なう映画の分析において、実務経験を活かす。

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。必要があればプリントを配布する。

参考文献

伊藤洋司『映画時評集成2004-2016』、読書人、2017年。

Yoji ITO, Apollinaire et la lettre d'amour, Editions Connaissances et Savoirs, Paris.

『週刊読書人』で「映画時評」を連載中です。また、『ユリイカ』『中央評論』等の雑誌や映画のパンフレット等に映画批評を
発表し、『週刊読書人』には蓮實重彦との対談等も掲載しているので、もし興味があれば参照してください。

オフィスアワー

その他特記事項

映画が好きな人が履修してください。

講義で見せる映画の場面には性的あるいは暴力的な描写が含まれることがあります。多くの学生は何も感じないかもしれませんが、感受性には個人差があります。こうした描写に敏感な学生は留意してください。

大学のHPに記載されているCOVID-19に関する行動指針に従って、感染予防(マスクや換気など)を十分に行なってください。大学の行動指針が変更された場合はそれに従ってください。

講義内容に関する質問を、manabaの個別指導 (コレクション) でいつでも受けつけます。

参考URL

備考

科目名: フランス映画B/フランス映画(1)B(2)B

担当教員: 伊藤 洋司

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-FS2-D310

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:58 更新者: AA0416

更新日時: 2022-12-28 16:22:58

履修条件・関連科目等

特になし。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

フランス映画論

フランス映画の歴史と美学とを学ぶ。時代、ジャンルを問わずあらゆる映画が研究対象となる。フランス映画の特質を理解するために、他の国の映画を取り上げて比較することも多い。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「専門的学識及び幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- (1) 映画論、特にフランス映画論の基本的知識と専門的教養を身につける。
- (2) 映画全般、特にフランス映画について自分自身の頭で本格的に思考できるような能力を身につける。

授業計画と内容

- 第1回「ロベール・ブレッソン論、あるいは空間の表象」
 - 第2回「ゴダールなんて知らないよ」
 - 第3回「1960年代はマニエリスムの夢を見るか」
 - 第4回「あらゆる映画は虚構である、あるいは虚構世界の充足理由律」
 - 第5回「水平運動の永続と落下の誘惑はフェティシズムなのか」
 - 第6回「愛という活劇、活劇という運動」
 - 第7回「真面目な少女のための恋愛映画論：純情篇/エロティシズム篇」
 - 第8回「触れることを禁じられ、ただ見ることしかできない」
 - 第9回「窓というスクリーン、あるいは象徴秩序と幻想」
 - 第10回「言葉からもイメージからもすり抜けるもの、あるいはリアルという虚無」
 - 第11回「ただ単位が欲しいだけ、あるいは私の欲望は他者の欲望である」
 - 第12回「善と美という価値の幻想、あるいは剰余享楽」
 - 第13回「量子力学の時代にスピノザやニーチェのような愛は可能なのか」
 - 第14回「大きな物語の終焉、あるいは宇宙の本質的無意味」
- *映画の劇場公開やDVD発売、さらには学生の反応に応じて、実際の講義内容は変化する。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

講義で一部分のみを取り上げた映画や、推薦もしくは言及した映画をできるだけ実際に観るようにする。あるいは、講義内容に関係する参考文献を読んで理解を深める。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 0%

レポート 90% 映画についての基礎知識を理解した上で、映画の根本に関わる問題を学生独自の観点から説明できるかどうかを評価します。

平常点 10% 講義に勤勉な態度で望んでいるかどうかを基準とします。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

もしCOVID-19が終息していない場合は、感染対策に協力的かどうかを平常点の重要な要素になります。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

講義内容に関する学生の質問を、manabaの個別指導 (コレクション) でいつでも受けつけ、それに回答します。講義に余裕があれば、学生全体に問いを投げかけ、回答してもらいながら、一緒に考えるという時間を設けたいと考えています。

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

長年に渡って、雑誌にて国内外の様々な映画監督へのインタビューを行っており、また時には、映画製作において、脚本やカット割りに関して具体的な助言を行なうこともあります。

実務経験に関連する授業内容

講義で行なう映画の分析において、実務経験を活かす。

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。必要があればプリントを配布する。

参考文献

伊藤洋司『映画時評集成2004-2016』、読書人、2017年。

Yoji ITO, Apollinaire et la lettre d'amour, Editions Connaissances et Savoirs, Paris.

『週刊読書人』で「映画時評」を連載中です。また、『ユリイカ』『中央評論』等の雑誌や映画のパンフレット等に映画批評を
発表し、『週刊読書人』には蓮實重彦との対談等も掲載しているので、もし興味があれば参照してください。

オフィスアワー

その他特記事項

映画が好きの人が履修してください。

講義で見せる映画の場面には性的あるいは暴力的な描写が含まれることがあります。多くの学生は何も感じないかもしれませんが、感受性には個人差があります。こうした描写に敏感な学生は留意してください。

大学のHPに記載されているCOVID-19に関する行動指針に従って、感染予防(マスクや換気など)を十分に行なってください。大学の行動指針が変更された場合はそれに従ってください。

講義内容に関する質問を、manabaの個別指導(コレクション)でいつでも受けつけます。

参考URL

備考

科目名: フランス文化研究A/フランス文化研究(1)A(2)A

担当教員: 杉村 裕史

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 木3

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-FS2-D311

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:58 更新者: AB2280

更新日時: 2023-01-02 17:51:08

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

フランスの地理・歴史を踏まえつつ、現代フランスを代表する文化事項をテーマごとに学ぶ。

科目目的

前期はフランス共和国の歴史や政治制度を中心として、現代フランスが抱える、移民問題、女性問題、家族問題、教育問題などを細かくテーマに分けて理解する。

到達目標

「フランス的なこと」とは何かを考える力をつける。

授業計画と内容

- 1 4/13 前期オリエンテーション+フランスの地理
 - 2 4/20 フランス史と、フランス文化の重層性
 - 3 4/27 (小テスト第1回 4月13日20日分の内容で20点) フランス人のイメージ
 - 4 5/11 フランス語の歴史
 - 5 5/18 フランス共和国
 - 6 5/25 政治制度
 - 7 6/1 (小テスト第2回 4月27日5月11日18日25日分で20点) マリアヌ
 - 8 6/8 宗教 移民の歴史
 - 9 6/15 ライシテ テロ 多文化主義と統合主義
 - 10 6/22 (小テスト第3回 6月1日8日15日の内容で20点) 女性論 ジェンダー
 - 11 6/29 結婚 バックス (パートナー制度) 同性婚
 - 12 7/6 教育制度
 - 13 7/13 (小テスト第4回 6月22日29日29日7月6日の内容で20点) 「フランス的なこと」とは何か
 - 14 7/20 (小テスト第5回 20点)
- 前期授業で講義した各テーマのうち、印象に残ったテーマの一つを選んで、A4一枚(1200字)に自分なりの感想を書いて提出

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

5回の小テストがあるので、小テスト前にはそれまでの講義内容をまとめておいてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	0%
平常点	0%
その他	100%

成績は、1回20点の小テスト5回の点数を合計して、90点以上、80点以上、70点以上、60点以上、59点以下を、入学年度により、S・A・B・C・E または A・B・C・D・Eで評価します。

小テストは持ち込み可です。

成績評価の方法・基準(備考)

出席点はありませんが、教室で毎回出席をとり、4回欠席で成績評価対象外とします。
コロナやインフルエンザ感染は公欠扱いにするので、感染したことを証明する書類等を提出してください。
忌引やその他の公欠届、また配慮願がある場合も公欠扱いにするので、書類を出してください。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

使用するテキストはありません。毎回manaba上にプリントを配布して、授業中に資料やYouTube 画像を共有します。この内容から小テストが作成されるので、各自メモを取っておくようにしてください。
manabaにのせた情報や資料はいつでも閲覧可能です。また小テストは資料閲覧可能ですので、いつでも見ながら小テストに取り組んでください。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名: フランス文化研究B/フランス文化研究(1)B(2)B
履修年度: 2023 学期: 後期 開講曜日時限: 木3
科目ナンバー: LE-FS2-D312

担当教員: 杉村 裕史
配当年次: 2~4年次配当

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:58 更新者: AB2280 更新日時: 2023-01-02 17:54:18

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

フランスの日常生活や食文化など、フランスの魅力を探る文化事項をテーマごとに学ぶ。

科目目的

後期は、フランスの食文化やフランス人の生活、ファッション、音楽、映画、世界遺産やパリなどの観光案内など、フランスの魅力を探る内容となります。

到達目標

フランス文化を学びつつ、「フランス的なこととは何か」を考える力を身につける。

授業計画と内容

- 1 9/21 後期オリエンテーション
フランスパン・チーズ・ワインまとめ
 - 2 9/28 パン・チーズ
 - 3 10/5 ワイン
 - 4 10/12 (小テスト 第1回 パン・チーズ・ワイン 20点) フランス料理史
 - 5 10/19 フランスのポップス
 - 6 10/26 フランスのモード
 - 7 11/9 (小テスト 第2回 ポップス・モード20点)おすすめフランス映画
 - 8 11/16 水・川・墓場
 - 9 11/23パリ 巨大なテーマパーク
 - 10 11/30 (小テスト 第3回 映画・水・パリ 20点)フランス人の生活暦
 - 11 12/7フランスのマンガ
 - 12 12/14スポーツ
 - 13 12/21 カフェ (小テスト 生活・マンガ・スポーツ 第4回 20点)
 - 14 1/11 (小テスト第5回 20点)
- 後期授業で講義した各テーマのうち、印象に残ったテーマを一つ選んで、A4一枚(1200字)に自分なりの感想を書いて1/18までにmanabaに提出

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

5回の小テストがあるので、小テスト前にはそれまでの講義内容をまとめておいてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	0%
平常点	0%

その他 100% 成績は、1回20点の小テスト5回の点数を合計して、90点以上、80点以上、70点以上、60点以上、59点以下を、入学年度により、S・A・B・C・E または A・B・C・D・Eで評価します。
小テストは持ち込み可です。

成績評価の方法・基準(備考)

出席点はありませんが、教室で毎回出席をとり、4回欠席で成績評価対象外とします。
コロナやインフルエンザ感染は公欠扱いにするので、感染したことを証明する書類等を提出してください。
忌引やその他の公欠届、また配慮願がある場合も公欠扱いにするので、書類を出してください。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

使用するテキストはありません。毎回manaba上にプリントを配布して、授業中に資料やYouTube 画像を共有します。この内容から小テストが作成されるので、各自メモを取っておくようにしてください。
manabaにのせた情報や資料はいつでも閲覧可能です。また小テストは資料閲覧可能ですので、いつでも見ながら小テストに取り組んでください。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名：美術史各論(3)A**担当教員：和田 菜穂子**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：木5

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-HR2-D455

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:01 更新者：AD0650

更新日時：2023-01-08 11:10:13

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

芸術と建築の関連性をテーマに、19世紀末から20世紀に至る欧米における近代建築の動向について学びます。とりわけ20世紀に入ると新しい時代の幕開けとともにヨーロッパ各国ではさまざまな芸術運動が興り、それに建築家も大きく寄与します。授業では日本と関わりのある建築家として、ル・コルビュジエを取り上げ、近代日本の建築界に及ぼした影響に触れます。学生によるプレゼンテーション等を盛り込み、インタラクティブな授業形態を試みます。

科目目的

自ら学ぶことを目的とします。個人課題は書評とPPTによるプレゼンテーションです。学びの意識が高ければ、より深く学ぶことができ、かつ学びの喜びを身につけることができるでしょう。学生同士による批評も加え、参加型の授業として共に学ぶ楽しさも共有します。

到達目標

自らの考えを自らの言葉で語るができるように個人課題を設定しました。一つは書評です。書き言葉として自らの考えを文章で表現します。二つ目はPPTによるプレゼンテーションです。話し言葉によって、自分の考えを相手にわかりやすいように言語化します。書評では限られた字数、プレゼンテーションでは限られた時間内に収めることも重要です。

授業計画と内容

1. イントロダクション：授業の進め方、建築と芸術の関わり
2. 学生による自己紹介
3. 講義：産業革命以降の動向 ウィリアム・モリス、アーツアンドクラフツ
4. 講義：世紀末建築 ウィーン・ゼセッション
5. 講義：装飾芸術 アール・ヌーボー
6. 学生による発表
7. 講義：ドイツ工作連盟、バウハウスにおける芸術教育
8. 講義：ル・コルビュジエ
9. 講義：ル・コルビュジエと日本
10. ワークショップ：グループワーク
11. 課外授業；建築見学会
12. 学生による発表
13. 学生による発表
14. 総括：まとめ

*受講生の理解度を重視して進めます。そのため、各回の内容や順番に変更が生じることがあります

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

書評を課題としますので、推奨する課題図書を最低1冊は読むこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	35% 書評レポート
平常点	30% 授業参加度
その他	35% PPTによるプレゼンテーション

成績評価の方法・基準(備考)

個人課題として、書評レポート、PPTによるプレゼンテーションなどがありますが、それ以外に授業中の発言など積極性を重視します。授業はインタラクティブに相互で意見交換をしながら授業を進めるので、能動的に授業に参加するようにお願いします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

オンライン授業の場合、ZOOMを活用

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

広汎な建築普及教育活動として社会人向け、外国人向けに建築ツアーを実施。建築に関する国際巡回展の企画、美術館でのワークショップの実施など。

実務経験に関連する授業内容

我が国において建築は理工学的なものとして捉えられることが多い。しかし欧米では「芸術領域」の中に位置する。その意義や建築の社会に対するあり方、関わり方について、授業を通じ習得していく。

テキスト・参考文献等

テキストはありません。授業のレジュメを配布します。
参考文献は講義中、適宜紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

建物、デザイン、アート、散策が好きな方、海外旅行や留学を考えている方にお勧めの授業です。

参考URL

<http://accesspoint.jp/>

<http://www.nahoko-wada.com/>

備考

科目名：美術史各論(3)B

担当教員：岸 佑

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：木5

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-HR2-D456

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:01 更新者：AD0770

更新日時：2023-01-09 13:53:30

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現代建築への道

20世紀初頭の欧米から広がった、鉄・ガラス・コンクリートの幾何学的なモダニズム建築は、世界中の都市と建物の様相を一変させました。しかし、これらの建築は1960年代頃からさまざまな側面から批判され、モダニズム建築の乗り越えが試みられています。とりわけ1990年代以降、テクノロジーの進化により都市建築デザインは新たなフェーズへ入りはじめています。本講義では、20世紀後半の都市と建築のデザインについて概観しながら、現代の都市建築デザインに対する見識を養うことを目的とします。授業は講義形式を基本としますが、学生によるプレゼンテーション等を盛り込み、インタラクティブな授業形態を試みます。

科目目的

この科目は、20世紀後半の都市・建築デザインを概観することを通して、学位授与の方針で示す「専門的学識」および「幅広い教養」を学生が修得することを目的としています。それとともに、主体的に学ぶ姿勢を重視します。学びの意識が高ければ、講義内容をより深く学ぶことができ、かつ学びの喜びを身につけることができるでしょう。

到達目標

1. 20世紀後半の都市・建築デザインの基本的な流れ・人物・出来事などを理解する。
2. モダン・ムーブメントの現代における影響とその重要性について説明できる。
3. 自らの考えを自らの言葉で書くことができる。
4. 自らの考えを相手にわかりやすいように伝えることができる。

授業計画と内容

1. 団塊世代の建築デザイン：好きな建築デザイン、苦手な建築デザイン
2. 学生による自己紹介プレゼンテーション
3. 近代建築の成立と成熟1 スカイスクレーパー、バルセロナ・パヴィリオン、ユニヴァーサル・スペース
4. 近代建築の成立と成熟2 ユルバニスム、最小限住居、インターナショナル・スタイル
5. 近代建築のひろがりの変容1 ケース・スタディ・ハウス、バックミンスター・フラー、SOM
6. 近代建築のひろがりの変容2 地域主義、建築とイデオロギー
7. 近代建築の懐疑と超克1 チームX、ルイス・カーン、メタボリズム
8. 近代建築の懐疑と超克2 「レス・イズ・モア」、『建築の解体』、ポスト・モダニズム
9. 建築のポスト・モダン1 批判的地域主義、テクトニクス、レム・コールハース
10. 建築のポスト・モダン2 ミニマリズム、サステナビリティ、SANAA
11. 団塊世代建築の保存と活用 モダン・ムーブメント、20世紀建築の継承、建築展覧会
12. 学生によるプレゼンテーション
13. 学生によるプレゼンテーション
14. 総括

*受講生の理解度を重視して進めます。そのため、各回の内容は変更することがあります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	35% レポート
平常点	30% 授業参加度
その他	35% プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(備考)

個人課題として、レポート、プレゼンテーションなどがありますが、それ以外に授業中の発言など積極性を重視します。授業ではインタラクティブに相互で意見交換をしながら授業を進めるので、能動的に授業に参加するようにお願いします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
 - ✓ 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

オンラインの授業の場合はZOOMを利用
manaba、Googleドライブなどを通じて資料共有などを行います。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストはありません。授業のレジュメを配布します。
参考文献は講義中、適宜紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：美術史各論(4)

担当教員：永井 裕子

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：月4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-HR2-D457

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:01 更新者：AD0570

更新日時：2023-01-10 12:21:34

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

イタリア・ルネサンスの主要な芸術家と作品を学びながら、この時代の美術の流れを概観します。授業ではルネサンス黎明期、初期ルネサンス、盛期ルネサンスを軸として芸術の展開を見ていきます。授業では数多くの図版や映像資料を使いますので、それぞれの作品の特徴を考えながら見るようにして下さい。

科目目的

イタリア・ルネサンス美術全般に関する知識を身につけ、この時代の芸術がなぜ重要なのか理解することを目的とします。

到達目標

ルネサンス美術をはじめとした芸術作品に向き合う際に、単なる芸術鑑賞に留まらない分析力を身につけることを目指します。

授業計画と内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：ルネサンス黎明期 1
- 第3回：ルネサンス黎明期 2
- 第4回：ルネサンス黎明期 3
- 第5回：ルネサンス黎明期 4
- 第6回：初期ルネサンス 1
- 第7回：初期ルネサンス 2
- 第8回：初期ルネサンス 3
- 第9回：初期ルネサンス 4
- 第10回：盛期ルネサンス 1
- 第11回：盛期ルネサンス 2
- 第12回：盛期ルネサンス 3
- 第13回：盛期ルネサンス 4
- 第14回：まとめ

なお、授業の進捗状況に応じて内容を変更する可能性があります。また、美術館見学で授業に代えることがあります。その場合に見学費は自己負担となります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	60%	イタリア・ルネサンス美術に関する基礎知識を前提とした上で、自ら選んだ作品について調べ、どのような観点からその作品を分析しているかを評価します。
平常点	40%	授業への参加・提出物の状況进行评估します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

美術館見学を取り入れる可能性があります。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
なし。資料を配布します。

【参考文献】
小佐野重利, 水野千依, 京谷啓徳『西洋美術の歴史4-ルネサンスI』中央公論新社, 2016年.
『世界美術大全集: 西洋編』11~13巻, 小学館, 1992-94年.
高階秀爾, 遠山公一『ルネサンスの名画101』新書館, 2011年.

【美術辞典】
『新潮世界美術辞典』新潮社, 1985年.
J. ホール『新装版: 西洋美術解説事典』河出書房新社, 2004年.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

